

第5学年〇組 国語科学習指導案

日 時 令和元年〇月〇日 (〇) 第〇校時
場 所 5年〇組教室
在籍児童数 男子〇名、女子〇名、計〇名
授 業 者 〇〇 〇〇

1 単元名 すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう
「大造じいさんとガン」(光村図書5年)

2 単元について

(1) 児童の実態

国語の意識調査を、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の4観点で行った。「国語の学習は好きですか。」という質問に対しては、約75%の児童が「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した。理由としては、「文を読むことが好き。」「自分の考えを自由に書ける。」「意見交換が楽しい。」「漢字学習が好き。」「自分なりの文章を考えて書ける。」などが主な理由として挙げられている。一方、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」と答えた児童は、「内容が難しい。」「文を読むのが苦手。」「意見交換をするのに自信がない。」「漢字が嫌い。」「頭の中に入っていない。」といった理由が挙げられていた。こうした実態から、学習内容と児童をどのようにつなげるか、考えを広げ深めるための表現の場の工夫をどのようにするかなどが授業改善の重点と考える。また、「話し合いの場で、どのくらいの人数のグループならば自信をもって自分の考えを伝えられるか。」という質問では、ペア・グループ・全体など様々な回答があったが、苦手意識をもつ児童の共通している点は、「自分の考えに自信がもてない。」ということであった。学習環境を見直すとともに、一人一人が自信をもち、交流したいと思える場の工夫を行っていきたい。

(2) 教材観

本単元は学習指導要領 第5学年及び第6学年のC読むこと(2)内容で以下のように示されている。

(1) 読むことの能力を育てるため、次の事項について指導する。

- ア 自分の思いや考えが伝わるように音読や朗読をすること。
- イ 目的に応じて、本や文章を読み比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。
- ウ 目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。
- エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。
- カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

中心人物である大造じいさんが、狩人として様々な作戦を立てながらガンを狩ろうとしていく。はじめは残雪をいまいましく思っていたが、仲間のガンを助けたり、人間が寄っていても逃げなかったりする残雪の姿を見ることで、残雪のことをいかにも頭領らしいと思うようになる話である。また、最初の場面は、大造じいさんが若者達に当時の話をするという形で始まっているところも特徴である。大造じいさんの人物像や心情の変化、情景描写の効果や主題などを、対話を取り入れながら捉え考えていく。

(3) 指導観

本単元では、三次の活動としてレポートづくりを行う。レポートには、教材文の「大造じいさんとガン」を読み進めてきた中で学んだよさとして、①登場人物の人柄や関係性について ②印象に残る文章表現について（心情・動き・情景など） ③作者についての3点でまとめる。本活動を見据えて物語の設定や構造について捉え、中心人物である大造じいさんの心情の変化を場面ごとに考えていく。大造じいさんのセリフの読み方を考えたり、残雪に対する見方の変化を「撃たなかった」のか「撃てなかった」という切り口や「ひきょう」という言葉から考えたりする。また、本教材の魅力である情景描写については必要かどうかを考えていく中で、そのよさについて捉えさせる。

本教材の見どころは、狩人である大造じいさんの残雪に対する見方（心情）の変化である。児童が大造じいさんや残雪に寄り添いながら思考を深めていけるよう、根拠と理由を明確にしながら交流できるようにしていきたい。

3 本研究会の研究課題・本校の研究との関連

<本研究会の研究課題>

研究課題「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
〈教科等〉主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

<本校の研究主題>

主体的・対話的で深い学びができる児童の育成
～学びの質の向上により深い学びを目指す授業づくり～

<目指す児童像>

他者とのかかわりを大切にしながら、進んで自分のおもいを伝え合える児童

<手立て>

① 判断（選択）する学習課題から、主体的な学びを引き出す学習過程の工夫・改善

児童に考えさせたいことを直接問うのではなく、選択肢の中から児童自身が選択することで、文章を読むきっかけとしたい。例えば、大造じいさんが残雪を「撃たなかった」のか、「撃てなかった」のかのどちらかを選ぶことで、その根拠となる文章を探す必然性が生まれる。根拠となる文章から、「〇〇だと考えたから…」というように、自分がなぜその選択肢を選んだのかを表現することにつながる。判断・選択することがゴールではなく、選択することによる深い読みや気づきを引き出していく。

② 立場の違いから対話的に考えを交流する場の設定

判断・選択させることによって立場の違いが生まれる。「同じところを選んだ人は、理由は同じかな。」「え、どうしてそっちなの？」といった他者意識を大切に、「なるほど、立場は違うけれどたしかにそ

うだな。」「同じ方を選んだけれど、根拠や理由が違うな。」等、自分と他者を比較しながら自分の考えを広げ深める場を設定する。

③ 自分の考えを表現する振り返りの設定

自分の考えを言語化することで、考えが変わったことや、考えは変わらなかったけれど友達の考えを聞いて深まったこと等を実感させて次時につなげ、主体的な学びを促していく。また、振り返りを全体で紹介することで、気づきの視点を広げる。

④ 意識的に範読を聴くことによる学びの土台づくり

教師の範読は主に単元の最初の授業で行うことが多いが、その他の場面でも取り入れていく。例えば、ある場面を範読する際、「大造じいさんの心情が大きく変わったと思った時に拍手をしてね。」と指示する。学習内容に難しさを感じる児童も、友達の拍手の音を聞いて気づいたり、自分が考えたところと違うところで拍手が起こったりすることで、疑問がわくことを学習のきっかけとする。

⑤ 児童の反応に応じて適時教師がつなぐ対話の場の工夫

「ペア・グループで意見交流をしよう」といった対話の場をあらかじめ計画して授業をすることは重要だと考える。それに加え、児童の反応に応じて適時対話を取り入れていく。また、「〇〇さんの言ったことを△△さん、代わりに説明してみて。」「□□さんの言ったことを隣の人と確認して。」と、教師が「なるほど、～～だと思ったんだね。」と受け止めるだけではなく、児童の発言や発表をつなげていくことで、思考をより広げ、深めていく。

4 単元の目標と評価規準

○叙述や場面の移り変わりから登場人物の心情の変化を読み、物語のよさを味わおう。

ア 国語への関心・意欲・態度	エ 読む能力	オ 言語についての知識・理解・技能
①人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。 ②友達の考えを読み、自分の考えを広げようとしている。	①心情や場面の様子が伝わるように音読している。 ②登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。	①情景描写のよさを理解し、言葉や表現に気をつけて様子を想像している。

5 指導と評価の計画（全7時間扱い）

次	時	目標と学習内容	学習活動	評価規準・評価方法
一次	1	○「大造じいさんとガン」を読んで初発の感想をもち、ログラインを書く。	・初発の感想を書く ・ログライン（〇〇が～して～になった話）を書く。	ア① 人物の心情や場面の様子を表す表現を味わいながら読もうとしている。（発言・プリント）
二次	2	○ログラインを基に、物語の設定や構造を理解する。 ○児童の初発の感想を聞き、単元の見通しをもつ。	・時、場所、登場人物、出来事（作戦）などについて確認する。 ・物語の構成を確認する（起承転結）。 ・友達の感想を聞き、考えを広げる。 ・三次で行う活動を知る。	エ② 登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。（発言・プリント）

3	○うなぎつりばり作戦の「ううむ。」とタニシ作戦の「ううん。」は同じ読み方でいいかを考え、文章を基に交流する。	<ul style="list-style-type: none"> ・第一・二場面の音読をする。 ・「ううむ。」と「ううん。」の読み方について考える。 ・読み方が違う（同じ）ということは、文章のどこから分かるかを考える。（中心人物の心情の変化、場面の移り変わり、中心人物の対人物への見方の変化等から読み取る） 	<p>エ① 心情や場面の様子が伝わるように音読している。（観察・発表）</p> <p>エ② 登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。（発言・プリント）</p>
	○第三場面について、大造じいさんが残雪を前にして仕留めなかったことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・第三場面の音読をする。 ・教師の範読を聞き、中心人物の心情が変わったなと思うところで拍手する。 ・中心人物は「撃たなかった」のか「撃てなかった」のかを考える(残雪の影響)(残雪に対する思いの変化、狩人としての生き方、経験値)。 ・「〇〇な鳥」で残雪についてまとめる。 	<p>エ② 登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。（発言・プリント）</p>
	○第四場面を読み、大造じいさんにとってのひきょうなやり方とは何かを考えよう。（3つの作戦はひきょうか）	<ul style="list-style-type: none"> ・第四場面の音読をする。 ・これまでにやった3つの作戦と、大造じいさんの言った「ひきょうなやり方」を比べて考える。 ・大造じいさんにとっての「ひきょうではないやり方」についてまとめる。 	<p>エ② 登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。（発言・プリント）</p>
	○情景描写の必要性について考え、大造じいさんは第四場面の後、ガン狩りを続けたのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の中で、情景を表す文を探す。 ・必要かどうかを考え、物語にどのような影響があるか（作者はなぜ入れたのか）を考える。（代わりの表現を提示する） ・大造じいさんのその後について考える。 	<p>オ① 情景描写のよさを理解し、言葉や表現に気をつけて様子を想像している。（発言・プリント）</p>
	○「大造じいさんとガン」の物語のよさについてレポートにまとめよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習を基に、大造じいさんとガンの良さはどんなところかを考え、3つにまとめて交流する。 ・交流したことを基に、レポートにまとめる。 	<p>エ② 登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。（発言・プリント）</p>
	○友達のレポートを読み、友達の考えのよさを見つけてコメントしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達のレポートを読み、自分にはなかった視点や記述を探し、付箋にメモをして貼る。 	<p>ア② 友達の考えを読み、自分の考えを広げようとしている。（付箋）</p>

6 本時の学習指導（4／7時）

(1) 目標

第三場面について、叙述を基に中心人物の心情の変化に着目して読むことができる。

(2) 評価規準

登場人物の心情や動き、情景を表す表現を捉え、自分の考えをまとめている。【エ 読むこと】

(3) 展開

学習活動	T 主な発問 C 予想される児童の反応	・教師の支援 ※評価	時
○前時の振り返りを共有する。	・第一・第二場面を通して、大造じいさんの心情の変化について捉えたことを確認する。(振り返り共有)	・似ている表現(「ううむ。」「ううん。’)でも、心情の変化があったことを押さえる。	2
○第三場面について大造じいさんの心情が表れているところに線を引く。	T 今日第三場面について考えます。まず、自分で黙読しながら、大造じいさんの心情が表れているところに線を引きましょう。心情が表れている文を探すには、どんな文に注目すればいいですか? C 会話文のところ C 大造じいさんの行動について書かれているところ C 周りの風景について書かれている文	・心情が表れているところに線を引かせる際、行動・登場人物の言葉・情景描写などに着目できるよう声掛けをする。	5
○第三場面の範読を聞きながら、大造じいさんの心情が変化していると思う所で拍手をし、心情の変化を捉える。【主】	T 今から先生が第三場面を読みます。みなさんは、先生の音読を聞きながら、自分で線を引いた場所を基に、大造じいさんの心情(気持ち)が大きく変わったと思うところで拍手をしてください。一か所ではなくてもいいですよ。	・心情が表れているところの線を基にして心情の変化について考えさせるため、教科書を見直す時間を取る。	3
○山場を確認し、大造じいさんの行動について考える。	T 先生の音読を聞きながら、大造じいさんの心情の変化についてよく考えていることが伝わってきました。さて、多く拍手があったのは、どの文だったかな? C 「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」 C 「どうしたことだ。」 C 「ピュ、ピュ、ピュと口笛をふきました。」 C 「大造じいさんは、ぐっとじゅうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思ったか、再びじゅうを下してしまいました。」 C 「大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。」	・残雪がおとりのガンを助けた場面や、大造じいさんが銃を肩にあてたが、おろしてしまった場面などに着目させる。	3

<p>○学習課題を知る。</p>	<p>T なるほど。周りの友達の考えについてもよく聞いていましたね。大造じいさんの職業はなんですか？</p> <p>C 猟師</p> <p>T 猟師の仕事は、生き物を狩ることですね。でも、大造じいさんは銃をおろしてしまっただ。そして、最後まで残雪を仕留めなかった。今日はみんなでこのことについて考えてみましょう。</p>	<p>・大造じいさんは猟師であるということを押さえる。</p>	<p>2</p>
<p>大造じいさんはどんな思いで残雪を仕留めなかったのか考えよう。</p>			
<p>○自分の立場を選ぶ。 【主】</p>	<p>T では、大造じいさんは、残雪を「撃たなかった」のでしょうか。それとも、「撃てなかった」のでしょうか。どちらだと思いますか？「撃たなかった」と「撃てなかった」はどのような違いがあるかな？隣の人と考えてみましょう。どうですか？</p> <p>C 「撃たなかった」は、自分から撃たなかった感じ</p> <p>C 「撃てなかった」は、撃たせてもらえなかった感じ。残雪の姿から。</p> <p>T では、どちらだと考えるか、手を挙げてみましょう。どうですか？</p>	<p>・自分の立場を明確にするため、全員挙手をさせる。</p> <p>・「撃たなかった」と「撃てなかった」については、児童から出なかった場合は、教師が押さえる。</p> <p>・それぞれの人数を板書する。</p>	<p>3</p>
<p>○個人で考え、ペア→全体で共有する。【対】</p>	<p>T どうしてそう思うか、プリントに自分の考えの根拠となる文とその理由を書きましょう。</p> <p>T 自分の考えを隣の人と共有します。聴くときは、相手の考えに共感できるか、疑問を感じるかを考えながら聴きましょう。</p> <p>T では、全体で考えを発表し合ひましょう。</p>	<p>・根拠となる文章を探すことに難しさを感じている児童がいた時は、大造じいさんはどんな思いで仕留めなかったのかという理由を確認した上で、文章に着目させる。</p> <p>・机間指導をしながら、根拠と理由がしっかりと書けている児童を称賛する。</p> <p>・児童が発表した際、同じ</p>	<p>5</p> <p>2</p> <p>7</p>

<p>○大造じいさんの残雪への見方が変わった、「ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」に着目させ、「○○な鳥だと思った」とすると、どんな言葉が入るかを考える。</p>	<p>C「残雪はむねの辺りをくれないにそめて、ぐったりとしていました。」という文から、ガンを助けようとした姿を思い出し、撃たなかった（撃てなかった）。</p> <p>C「第二のおそろしい敵が近づいたのを感じると、残りの力をふりしぼって、ぐっと長い首を持ち上げました。」という文から、残雪の頭領としての強い思いを感じて、撃てなかった（撃たなかった）と思います。</p> <p>C「いきなり、敵にぶつかっていきました。」という文から、とても強いハヤブサに対して負けずに立ち向かっていく姿に驚き、撃たなかった（撃てなかった）のだと思います。</p> <p>C「残雪の目には、人間もハヤブサもありませんでした。ただ、救わねばならぬ仲間の姿があるだけでした。」という文から、仲間想いの行動に感心しただけではなく、自分が大事に面倒をみたガンまでも助けようとしていたことから、撃てなかった（撃たなかった）のだと思います。</p> <p>T 様々な考えが出ました。同じ根拠となる文でも、理由はそれぞれ違いがありました。大造じいさんは結果として猟師であるにもかかわらず、銃をおろしてしまった。残雪と向かい合ったときにどうして仕留めなかったのでしょうか。</p> <p>C「ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」</p> <p>T 第三場面の最後の一文が大造じいさんの心情の変化（残雪への見方の変化）を大きく表していそうですね。ただの鳥ではないとすると、どんな鳥だと大造じいさんは感じたのでしょうか。「○○な鳥だと思った」とすると、どんな言葉が入るか考えてみましょう。</p>	<p>（似ている）考えをしている他の児童にもつなげ、多様な考えを引き出すようにする。</p> <p>※登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができる。【エ 読むこと】 （発言・ノート）</p> <p>・残雪に対してどんな思いをもったからか（見方がどう変わったか）を考えさせ、「ただの鳥に対しているような気がしませんでした。」の文につなげる。</p> <p>・戸惑っている児童に対しては、残雪とハヤブサの戦いの場面に着目させることで、残雪のすごさを考えさせる。</p>	<p>4</p>
--	---	---	----------

<p>○考えの交流をする。 【対】</p>	<p>T 考えを発表しましょう。 C 仲間想いの鳥 C 勇気のある鳥 C 人間のような鳥 C 勇敢な鳥</p>	<p>・鳥という存在を越えて、見方が変わったということを考えさせる。</p>	<p>2</p>
<p>○まとめ・振り返りをする。【深】</p>	<p>T みなさんの発表から、大造じいさんが残雪を仕留めなかったという行動には、様々な心情の変化があったからだということが分かりました。残雪の行動から、大造じいさんはどう感じた？ C 心を打たれた。 C 驚いた。 T 「ただの鳥」ではないように感じたということは、残雪に対する見方はどうなった？ C 変わった。 T そうですね。ではみんなの言葉から、まとめを書きます。最後に、今日の学習を通しての振り返りをしましょう。</p>	<p>・まとめとして、大造じいさんは残雪の勇敢な行動から、残雪への見方が変わったことを押さえる。</p>	<p>7</p>

7 板書計画

<p>残雪の姿に大造じいさんは大きく心を打たれ、残雪への見方が変わった。</p>	<p>「ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。」 「○○な鳥」</p>	<p>大造じいさんはどんな思いで残雪を仕留めなかったのか考えよう。 撃たなかった 撃てなかった</p>	<p>挿絵 大造じいさんは、ぐっとじゆうをかたに当て、残雪をねらいました。が、なんと思っただか、再びじゆうを下ろしてしまいました。</p>
--	---	---	---